



# 福島原子力事故関連情報アーカイブ

FNA

Fukushima Nuclear Accident Archive

|                   |   |
|-------------------|---|
| Title             | 福島環境回復と復興創生に向けた未来志向の取組  |
| Alternative_Title | Future-oriented efforts towards environmental restoration and reconstruction in Fukushima   |
| Author(s)         | 峯岸 律子(環境省)<br>Minegishi, Ritsuko(Ministry of the Environment)   |
| Citation          | 第7回環境放射能除染研究発表会要旨集, p.98<br>The 7th Workshop of Remediation of Radioactive Contamination in Environment   |
| Subject           | 企画セッション:「環境放射能と環境再生に関わる最近のトピックス」  |
| Text Version      | Publisher   |
| URL               | <a href="https://f-archive.jaea.go.jp/dspace/handle/faa/157531">https://f-archive.jaea.go.jp/dspace/handle/faa/157531</a>                         |
| Right             | © 2018 Author   |
| Notes             | 禁無断転載<br>All rights reserved.<br>「第7回環境放射能除染研究発表会要旨集」のデータであり、発表内容に変更がある場合があります。<br>学会は発表の機会を提供しているもので、内容に含まれる技術や研究の成果について保証しているものではないことをお断りいたします。 |



## 福島環境回復と復興創生に向けた未来志向の取組

環境省 峯岸 律子

東日本大震災から7年が経過し、帰還困難地域では、福島復興特措法に基づき、特定復興再生拠点区域の整備に順次着手しており、復興に向けては環境回復の取組のみならず、まち・暮らし・なりわいの再建に向けた支援が求められる新たなステージを迎えつつある。

本講演では、環境回復に向けた取組、とりわけ廃棄物処理の進捗状況等を報告するとともに、今年度スタートとする新たなステージに向けた取組を紹介する。

### ◆低炭素・資源循環「まち・暮らし創生」FS事業

本事業では、福島復興再生特別措置法に基づく特定復興再生拠点区域を対象に、「復興」と「低炭素化」の両立に向けた取組を推進するため、環境回復事業と連携しつつ低炭素の視点を最大限ビルトインした地域復興の絵姿（「復興×低炭素まちづくり」計画）を描くことを目的としている。

具体的には、福島の復興と環境回復事業と連携しつつ、再生可能エネルギーの有効活用や低炭素技術の導入を通じた、地域コミュニティの活性化、安全・安心の確保、高齢者対策、産業創出等の事業実現性、定量的なCO2削減効果の検証方法等を検討、課題の抽出等を行うものである。

- 先導的な低炭素技術による地域振興事業の立案（交通や住宅の低炭素化、ソーラーシェアリング、電熱融通、ICTやAI制御など）。
- 放射線に関する知見を活かした環境技術の検討や課題解決を踏まえた事業性の評価。

## 新たなステージに向けた「未来志向の取組」

○ 福島特措法に基づく復興再生拠点等を対象として、「町全体の復興と低炭素化の両立」に向けた取組を推進するためのフィージビリティ・スタディーを実施予定※。

○ 具体的には環境回復事業と連携しつつ、低炭素の視点を最大限ビルトインした町の復興の絵姿を描き、各種事業によるCO2削減効果の評価や、事業の実現可能性の検証を実施。

※2018年度新規事業：【低炭素・資源循環「まち・暮らし創生」FS事業（エネルギー特別会計：予算額2億円）】

### まち・暮らしの創生に関わる多様なプロジェクトの発掘に向けたフィージビリティ・スタディーを実施予定

